



## ◆来年(2020年)のスギ・ヒノキ花粉の飛散予想◆

来年(2021年)は都内において飛散数の少なかった『今年(2020年)の約2倍の花粉が飛散すると予想されます。』  
・昨年の2倍という予想ですが、今春(2020年)の都内(品川)の花粉飛散総量が2,000個台だったことを考えると、その2倍というと4,000個台と予想されます。

過去10年平均が約4,000個ということを見ると、来年の総飛散量は、ここ10年平均と同じくらいと予想されます。しかし、以前(20年前)は、飛散平均が2,000個でしたから、来年の4,000個というのは、決して少ない花粉量ではなく、十分な注意が必要です。体感では、2倍という増加は、十分多く、花粉症症状も強く感じる方が多いと分析されます。

### 【ポイント】

『来年(2021年)は、都内で少なかった今年(2020年)の2倍の飛散量で約4,000個の予想』

### 【分析】

- ① 今年(2020年)の花粉飛散量は、例年より少ない約2,000個台。
- ② 来年(2021年)は約4,000個の予想。
- ③ 過去10年平均が4,000個は、それ以前が平均2,000個であった。  
(スギ花粉は樹齢30年をすぎて現在飛散のピークの中、ヒノキはほぼ樹齢30年をこえ始め、これからより増加)
- ④ 来年(2021年)の4,000個は、十分花粉症症状が強くなる可能性があり、要注意!

### ◆都内(品川区)の飛散総数◆

**スギ花粉 3,500 個、**  
**ヒノキ花粉 500 個・**  
**総数 4,000 個(都内)**

### ◆飛散開始◆

都内は平年なみかやや早め(2月10日頃)

(西日本は平年並みかやや早く、東日本は平年なみか6日前後早い見込み。)

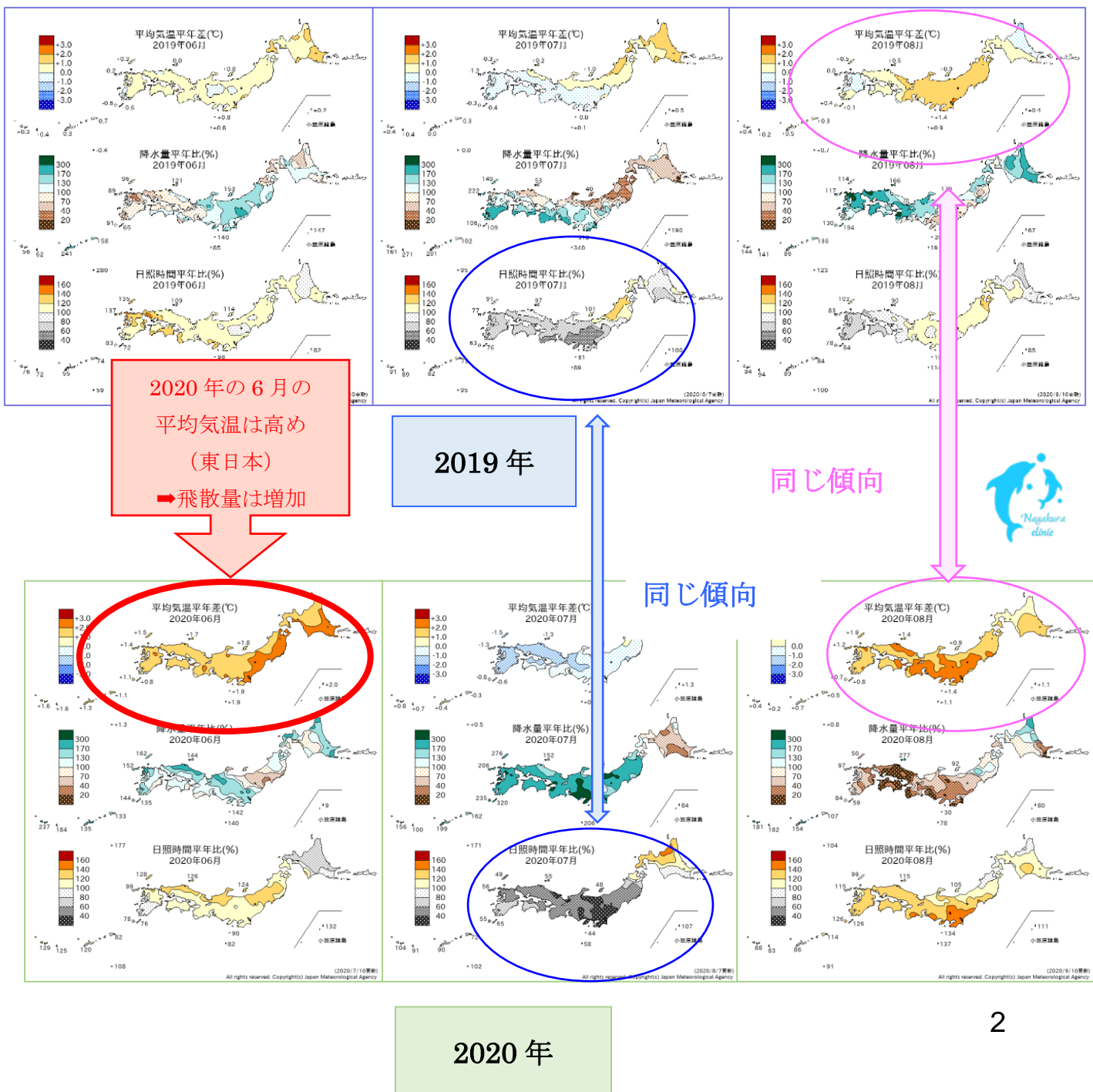


◆今シーズン(2020年)のスギ・ヒノキ花粉シーズンを振り返って

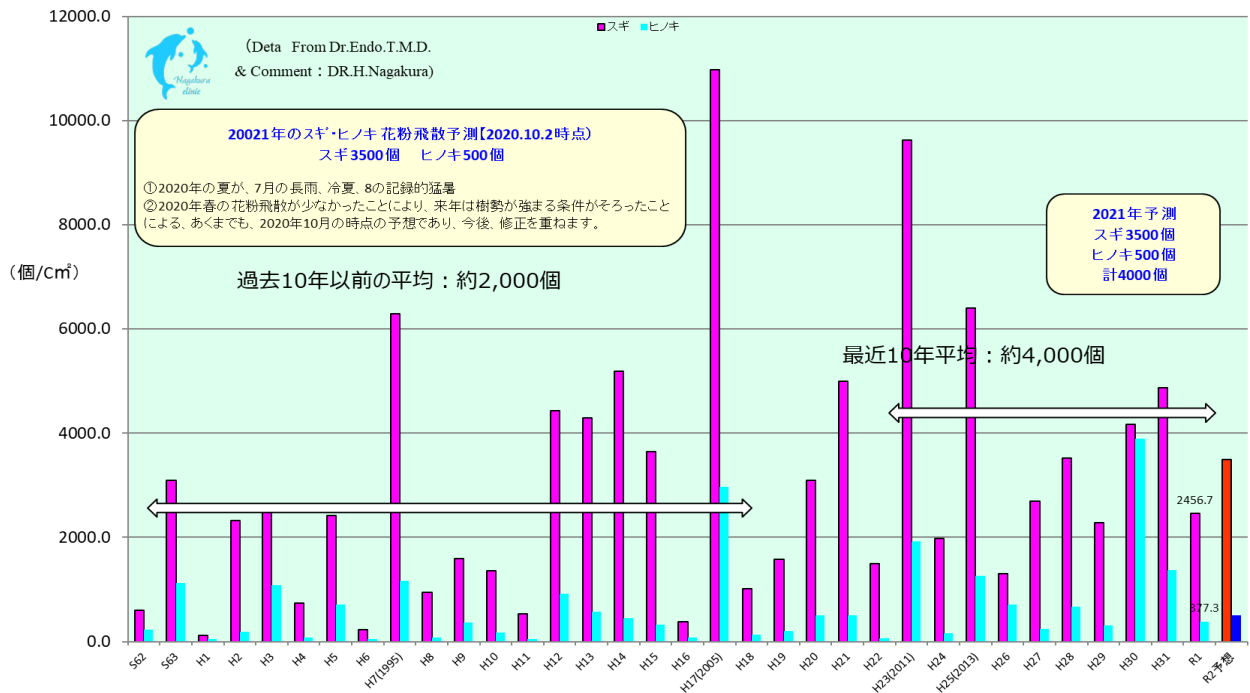
I. 今シーズン(2020年)のスギ・ヒノキ花粉シーズンは飛散数の少ない年となりました。

2020年のスギシーズンは品川区の測定(ほぼ都内の平均と同じ)が、  
 スギ花粉の飛散総数、**2,476.7個**(昨年4875.5個の**50.8%**)、  
 ヒノキ花粉飛散総数、**377.3個**(昨年1370.7個の**27.5%**)、  
 スギ+ヒノキ花粉飛散総数、**2854.8個**(昨年6246.2個の**45.7%**・例年平均約4,000個の**71.4%**)  
 総数で比べると、今年のスギ+ヒノキ花粉が計2854.8個は、昨年6146.2個の45.7%と半分以下の少ない飛散年となりました。

◆2019年・2020年の気象条件の比較(日本気象協会)◆



## 2021年スギ・ヒノキ花粉飛散予測（品川区・ダーラム法・2020.10.2発表）



### 【まとめ】

2021年は、6月の日照が多いのと、木の勢いが回復するため、飛散量は増加して今年の2倍。

### 【理由】

- ① 2019年と2020年の7月と8月の気象条件、『7月の冷夏、8月の猛暑』はほぼ同じ。
- ② スギ・ヒノキ雄花の形成に最も影響する条件は『8月より7月の気象条件』と分析される。
- ③ 木の樹勢による影響は、2020年の飛散数の減少を受けて、2020年は増加しやすい。
- ④ スギ、ヒノキの**花芽の光合成**に影響する6月の日射量は2019年より2020年の方が多い。

#### ◆翌年のスギ・ヒノキ花粉飛散に大きく影響する因子

- ① 全年の夏の気象
- ② 樹勢



資料作成:ながくら耳鼻咽喉科アレルギークリニック（永倉仁史）

（情報:NPO 花粉情報協会 :<http://pollen-net.com/>）